

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森

第2号 2003年9月30日発行 発行；麻生多摩美の森の会

発行責任者；勝田 政吾 編集者；木村 信夫

多摩美の森の楽しみ、森づくりのアドバイス

9/21 “野外観察指導講座”講師 北澤 清先生に聞く (まとめ：編集委員)

麻生多摩美の森に来て「いいな」と感じるのは、まず人が集まれる広場があること。そして広場から、ふれあいの森など隣接地も含めた木々の眺めがいいことです。

そこには、ヤマザクラの立派な巨木があり、都心から次第に後退して見られなくなったモミの巨木があることが貴重です。また、珍しい木としてアワブキがあり、視線を地面近くに転ずると、紫色の実をつけるサワフタギや、葉の真ん中に花を咲かせるハナイカダなどの低木が生えています。

最近の里山保全では、森を明るくするため、シノダケなどと共にこうした低木や後継樹まで刈り払っているところも見られます。しかし、コナラ・ヤマザクラ・スギなどの高木から、亜高木 低木 草本 地被植物というように階層的に森を育てていくことが、豊かな森づくりといえるでしょう。

健康の森に記念植樹されている木には、キハダなど非常に大きくなって、すぐに空間を埋めるものがありますが、それぞれの木の占有面積がどれくらいかを考えることも大事です。それというのも、これからの森づくりでは、例えばケヤキの扇型の見事な樹形のように、木がのびのびと成長する自然で個性的な姿が見られるようにしたい。これが、20～

30年で更新してきた昔の里山と違って、樹木を楽しむ現代の里山ではないかと考えます。

実のなる木、赤く紅葉する木、黄色く黄葉する木、発芽から展葉の過程が美しい木、などなど樹木の楽しみは季節を通じてたくさんありますが、それには木の種類を知ることが出発点になります。森のイベントは各地でいろいろありますが、コースを設けて木の名前テストなどはどうでしょうか？ 広い森に木のネームプレートを1種類1箇所だけつけ、探しながら覚えるというのも、ひとつのアイデアです。

北澤清氏 樹木研究家、元東京農業大学造園学科助教授、川崎アカデミーみどり学講師、川崎市公園緑地協会理事。樹木ウォッチングで平成14年度川崎市環境功労賞受賞。



<イシデの株立ちとアワブキ、サワフタギのあるところ>

小学校や町会とともに

環境局・市民健康の森担当主幹

村上 豊比古

市民健康の森担当の任に付いて、早いもので4ヶ月が過ぎようとしております。この4ヶ月の間、各区の健康の森の活動を見させて頂いてきて一番感じた事は、それぞれに非常な温度差があることでした。この温度差を解消して行くのも、我々市民健康の森担当の一つの大きな仕事だと思っております。

確かに活動フィールドも温度差の一つの大きな原因かとは思いますが、やはりそれだけではない様です。会員の方々が会の活動をどう考えているかで、大きな差が出ているようです。多摩美の森の会には、萩原君に任せて顔を出す機会が少なく大変申し訳ないと思っております。先程も申しました様に、どうしても活動日が重複しますと、活動が遅れている会の方へ出ざるをえなくなってしまうのです。このへんはご理解頂きたいところです。

多摩美の森の会はずでに、組織もしっかりし自立した運営管理組織に成っていると思っております。活動や、イベント等も年間スケジュールで確認されております。ここで一つお願いですが、収穫作業は是非小学校とか町会の方々に声をかけていただき、普段絶対体験できないような収穫の喜びを味わえるイベントに仕立てていただきたいと思います。そして、共に収穫の喜びを味わってください。

ついでの要望ですが、今後会の中から多くのリーダーを生み出し、第二、第三の多摩美の森の会(健康の森)を設立するとともに、会が麻生区の街作りのリーダーとして発展していくよう願っております。

地域コミュニティの拠点を

環境局・市民健康の森担当主査

江田 敦

4月より市民健康の森担当として7つの区の森の活動に携わり、4ヶ月になります。それぞれの市民健康の森がいろいろな特色に富んでいるため、いまだに戸惑っております。その中で、麻生区市民健康の森は、他に比べ森らしい雰囲気が残っているところではないでしょうか。

活動に参加してスコップで土を掘り返すと、数センチ下は全てガラで草花を植えるのにも大変な森もありました(麻生も多少ガラが出ますが)。麻生区の森も私の記憶では、確か20年程前に市が小学校用地として確保したものの、そのまま放置されていた土地であり、篠竹が繁茂していたことを覚えております。私も緑政課在籍当時、多摩緑地保全地区の測量や用地買収、多摩美ふれあいの森工事、また、よみうりランド外周道路の土地交換などで周辺を幾度となく歩き回りましたが、そこは少し薄気味悪く、一人で休憩できる所ではありませんでした。

ところが、いまや健康の森に位置付けられ、皆さんの活動により篠竹が駆逐され、縁台も設置、ハイキングや散歩の途中に一休みできる明るい広場に変貌していたことは驚きでした。

明るい広場になった分、今の時期は雑草の勢いが凄く、草刈りは大変ですが、植えてある苗木が木陰をつくるようになるまで、辛抱強く地道な作業を続けていくことが必要だと思います。麻生区市民健康の森も推進計画で謳っているよう「一気にではなく徐々に作りあげていく」活動をとおり、この場所が地域コミュニティの拠点となるよう、活動に参加していきたいと思っております。

森の生きものノート

初夏 ホトトギスとミドリシジミ

曾我 浩 (え:曾我千文)

6月の定例作業の日に、自然に詳しい友人と2人で、健康の森を少し散策してみました。

まずは、空高く「トッキョキョカキョクツ」と聞こえるホトトギスが今日のメインゲストです。

「鳴いて血を吐くホトトギス」と言われる様に、この時期は早朝や真夜中でも飛びながら鳴きつづけるホトトギスの声に、深山幽谷に迷い込んだような気分になってしまうのは私だけでしょうか。

ホトトギスは、自分で子育てをせずにウグイスの巣に卵を産みつける習性があります。託卵と云いますが、夏に子育てにやってくるツバメなどよりも渡ってくる時期が遅いのは、そういう理由からなのかもしれません。

鳥のほかにも、とてもきれいな蝶を見つけました。



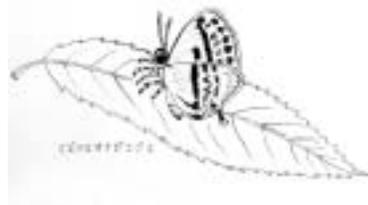
ゼフィルスの仲間でもズイロオナガシジミです。蝶は、食草(樹)といって「この草にはこの蝶がやってくる」というのがあり、蝶を見つけるよりも草を見つけることで、その蝶に出会えることがあります。

この蝶は、ミドリシジミ族で、食樹は、クヌギ、コナラなどですので雑木林の蝶といえるでしょう。

秋になると、野鳥は渡りの時期になります。夏に子育てをした鳥は南に帰り、シベリアなどからは、冬を越しにカモや小鳥が渡ってきます。

9月、10月は、多摩美の森でも思いがけない鳥に出会うチャンスがあります。エノキの実など、実のなる木のところには、キビタキやエゾビタキなどのヒタキの仲間が渡りの途中の休み場所として訪れるかもしれません。

秋の空を見上げながら、鳥でも雲でも、自分なりに楽しんではいかがでしょうか？



隣接斜面地のマンション建設に対して

岡村 克彦

市民健康の森南入り口の蕎麦屋「襟」の向かいの斜面緑地に、いま問題の地下室マンション建設の計画が出されていることが分かったのは7月4日です。さっそく、区建築課に連絡し、周辺住民への説明会開催と情報公開を求めました。

この土地は、第一に、ふれあいの森、健康の森、自然遊歩道と地続きで、開発されると動植物の生態系に大きな影響が予想されます。また「かわさき緑の30プラン」(95年策定)や、「新たな緑地保全方策について」(02年答申)の市政方針とも整合しません。そこで、7月22日、関係町会・団体とともに市議会に対し用途変更

の陳情書を提出しましたが、その目的は達せられませんでした。

第二に、ここではかつて大雨でガケ崩れが起こっており、工事中の危険度が非常に高く、また大量の掘削土砂による周辺住宅街への深刻な公害が予想されます。しかし区は、「法違反が無いから」と、8月11日に許可を出し、後は業者と話す様にとのことです。

他方で市は7月末、国に対して地下室マンション規制の要望書を出すとともに、9月5日には横浜・横須賀3市による合同対策会議を開いています。こうした動きを進める原動力は、緑を守る市民の願いと運動です。健康の森周辺でも、粘り強く監視と運動を続けていく必要があると思います。

今秋の活動予定

副会長 平林 謙三

天候不順だった夏も終わり、いよいよ気持ちのよい秋のシーズン到来です。9月には皆さんの頑張りで、猛烈な勢いで繁殖した雑草を除去できました。これからは楽しい行事がいっぱいありますので、是非お誘いあわせの上ご参加ください。

涼しくなるので、10月から作業時間は、10時開始に戻します。

最初の30分間は域内の清掃を行います。

- 10月5日(日) そばの収穫、雑草の除去
- 10月18日(土) さつまいもの収穫、麦畑の畝たて、植樹祭・収穫祭の準備
- 11月1日(土) さといもの収穫、植樹祭・収穫祭の準備、藤棚の組み立て、麦の種まき
- 11月16日(日) 植樹祭・収穫祭 詳細は右の囲み記事をご覧ください。<雨天 11/22>
- 12月7日(日) 篠竹の刈り込みなど
- 12月20日(土) 篠竹の刈り込み、炭焼きの準備など



<健康の森を育てる植樹祭風景>

会員の声

多摩美の森で

やってみいたいこと 鋒山 明子

まず、女性会員が増えて欲しいです。畑もいけれど、花畑があったら増えるかな？チマチマとしたクラフトなども楽しそうです。

子供にウケるのは、食べ物、焚き火、収穫と分かってきたので、冬などは小さい火を起こしておくのも良いかもしれません。

また、痴呆のお年寄りの園芸療法に利用してもらうのはどうでしょうか？先日、パートで働いているデイスサービスで、蕎麦の花を見せたら、珍しがられました。

絵の具と画用紙を用意して、いろんな形の葉っぱに絵の具をつけて、画用紙にぺたぺたと押して、“夏休みの思い出”というのはいかがでしょうか。大人も子供も楽しめそう。

植樹祭&収穫祭

みんなきてねー!!

日時; 11月16日(日)9時~13時

開会式 挨拶、体操、各班に分かれて清掃などの準備

植樹

収穫のお祝い 乾杯と懇談、焼き芋や芋鍋などを楽しめます。

片付け後に、有志で親睦会(15時頃迄)

広報編集室からのお知らせ

- 次号は、12月発行の予定です。皆さんからの投稿をお待ちしています。
- 連絡・投稿先
木村 信夫 044-954-7855
fwhp6921@mb.infoweb.ne.jp
森 正昭 044-951-1089
BYA15610@nifty.com